

## イヴの木の女性起業家による社会貢献活動の報告

鈴木 景子

SUZUKI, Keiko

(一般社団法人イヴの木 代表理事)

### 1. イヴの木について

当団体は、2019年に任意団体「起業女子部イヴの木」を発足。スタート時は2名だった役員が、翌年には3名となり、その後、同じ志しを持つ女性起業家が集まり、理事6名・監事1名の合計7名にて、2021年4月30日付けで「一般社団法人イヴの木」を設立した。



図1 イヴの木のロゴ

定款の目的は以下のとおり。

「当法人は、戸籍上あるいは性自認のいずれかにおける女性の起業家を対象とし、人的交流および情報交流を通じて相互の親睦を深め、起業支援ならびにビジネスチャンスの創出の場を提供すること、女性の社会起業家として社会・地域貢献に関わる各分野に沿った事業を行うことで、社会課題の解決に取り組み、女性の社会的立場の向上を図り、多様性を認め合い、もって男女共同参画社会の健全なる発展を目的とする」

男女共同参画社会の発展を主たる目的とし、創業の精神は「男女共同参画の視点を基礎に、択一、比較、優劣の概念を取り払い、利他、共助、多様性の3つの柱を理念」としている。

女性起業家集団であるイヴの木にとって、何人もの地域目線を有していることは、活動していく上で大きな強みといえる。地域に顧客を持ち、自らも世田谷区で生活する女性起業家が、男女共同参画社会を実現するための地域課題解決に向け、区民目線で実感したことを、同じ区民へ発信しようと、発足から現在まで様々な活動を行ってきた。この報告では、その一部を紹介し、女性起業家が社会貢献に取り組む姿を伝えたい。

### 2. イヴの木発足から現在までの活動

#### 2.1 女性起業家交流会

「起業女子部イヴの木」の活動の第一歩は、2019年に世田谷区立男女共同参画センター“らぷらす”(以下、らぷらす)で主催する女性起業家交流会の企画・運営を担当したことに始まる。この交流会は現在まで続いており、奇数月の第2木曜日に定期開催している。交流会当日は、イヴの木がファシリテーターとして、参加者を客観的な視点で捉えながらも、個々の事情や起業への価値観等に共感しながら進行していく。イヴの木は、役員全員が独

立した起業家でもあるため、起業未経験者よりも、参加者の共感性を引き出すファシリテーターができる。コロナ禍以降はZOOMによるオンライン交流会がメインとなったが、これまで時間や空間的な制約で参加できなかった方々から「オンラインなら参加できる」との感想も頂いている。と同時に、普段から、らぷらすを利用している女性起業家もリピーターであるのも、この交流会の特徴だ。理由は、らぷらすユーザーの女性起業家たちは、らぷらすが年一回開催する「起業ミニメッセ」(以下、ミニメッセ)への出展者や来場者が多く、お互いに自然と顔見知りとなるためだ。そんな女性起業家の連帯感が顕著に表れた事例として、この交流会で起きた、ある種のムーヴメントについて取り上げたい。

2019年開催のミニメッセ後、イベントの振り返りを兼ねた女性起業家交流会が行われた。交流会への参加者は、ミニメッセ出展者および来場者の割合が多く、誰からともなく「イヴの木メンバーと、もっといろいろ実践していきたい」という声があがり、「何かできないか」と議論しあった。その中で「起業家として社会貢献がしたい」という意見が飛び出すと、湧き上がるように参加者が次々と同意し始めた。交流会に参加する女性起業家たちは、自分以外の参加者も、営利ではなく、自身の事業を通じて「世田谷区のために何かしたい」という想いが強いということ、このとき初めて実感したのかもしれない。らぷらすでは、女性起業家交流会のほかにも「女性の悩みごと・DV相談」や、シングルマザーを対象とした「シンママカフェ」、「女性のためのからだところサロン」、「セクシュアルマイノリティのための世田谷にじいろひろば交流スペース」などの事業を展開している。こうした取り組みに参加している女性起業家も多く、この日の交流会ではたまたま、らぷらすを会場とした「セクシュアルマイノリティ支援者養成研修講座」の受講経験者が数名いた。そのときの学びを含め、女性起業家たちの熱意と機運が高まり“女性から男性だけでなく、全ての性別で楽しむバレンタインイベントを作ろう”というムーヴメントが起こった。それが、翌年2月に開催された「レインボーバレンタイン」である。

## 2.2 レインボーバレンタイン

2020年2月11日に第1回を開催した。以下に協賛・協力企業にあてた開催報告書の抜粋を掲載する。

<レインボーバレンタイン開催報告>

テーマ 女性から男性だけでなく、みんなでバレンタインを楽しもう

目的

1. 起業女子部イヴの木としての目的  
自発的にイベントを発案した女性起業家への支援
2. イヴの木登録の女性起業家としての目的  
起業家として出来るLGBTQ支援

3. 1、2を総じて、女性起業家支援を通じ地域と連携し、ともに社会的にLGBTQ理解の促進へとつなぐ

日時 2020年2月11日 13:30~18:00

会場 男女共同参画センターらぷらす

内容 3階フロア

- ・性別違和を抱えた画家・故岩本陽氏のギャラリー展

4階フロア

- ・レインボーチョコ、レインボークッキー、レインボーグッズなどの販売
- ・レインボーグッズ制作などのワークショップ
- ・LGBTQ当事者向けのボディマッサージ・ヘアメイク・歩き方レクチャーなどボディケアサービス
- ・採寸士によるLGBTQ当事者向けの個人の体形に合わせた衣装採寸サービス
- ・事前に公募したレインボーバレンタイン川柳の投票および入賞作品の発表

来場者 3階約120人、4階約480人 合計約600人（当初想定3階50人、4階100人）

川柳応募総数 541句（当初想定200句）

来場者アンケートの結果

1.事業の満足度 ①満足 93% ②やや不満 7% ③不満 0%

2.主な感想・印象に残ったこと

- ・和気藹々で良かった
- ・岩本陽紹介展が良かった
- ・短縮映画が良かった
- ・チョコが美味しかった
- ・みんな優しかった
- ・練馬区と違う、いいなあ
- ・キャロットタワーでの規模を想像していた。今後の発展をお祈りします。

3.性別・年齢別

女性 50% 男性 21% その他 14%

①10代以下 7% ②20代 0% ③30代 21% ④40代 14% ⑤50代 36%

⑥60代 14% ⑦70代 7% ⑧80代以上 0%

4.本イベントをどこで知ったか

①世田谷区報・区民のひろば 7% ②チラシ 36% ③SNS 14%

④知人の紹介 29% ⑤その他 14% (LGBTの家族と友人をつなぐ会、企画者)

5.会場でどこを訪れたか（複数回答）

①女性起業家ブース 64% ②映画 21% ③カフェ 42%

④3Fギャラリー&4フロビー絵画投影 58% ⑤川柳展示 72% ⑥その他 14%

6.来年も開催された場合、どんな企画があってほしいか？

- ・音楽祭
- ・高校生や大学生などの参加(出展)
- ・野菜や植木の販売
- ・手話
- ・多様な出店
- ・当事者や当事者の家族のトークイベント
- ・LGBTをテーマにした落語
- ・講演会
- ・LGBT映画祭

協賛 (株)チェリオコーポレーション (株)ビックフレンド パセラリゾーツ  
 (有)マルカワ NPO法人レインボースープ Queer&Ally けるや  
 NPO法人LGBTの家族と友人をつなぐ会

協力 岩本陽ご家族 NPO法人共生ネット代表理事 原ミナ汰 (株)公募ガイド社

後援 世田谷区 世田谷産業振興公社



図2 第1回レインボーバレンタインのチラシ

初めてのイベントは、新型コロナウイルスが本格的に日本中で猛威を振るい始める直前の時期で、もし、1週でも開催が遅れていたら中止の可能性もあった。そう考えると、会場をキャパシティ一杯に集客できた、貴重なイベントであった。

翌年の第2回はオンラインがメインとなり、リアル会場では、世田谷区生活文化政策部人権・男女共同参画担当課保管の「世田谷区パートナーシップ宣誓5年間の歩みとここで暮らす私たち」展（世田谷区と「世田谷DPR」との共催）のパネルを展示した。またイベント内容も「レインボーバレンタイン&レインボーホワイトデー」とし、期間を1ヶ月間に拡大した。

前回のアンケートで「来年も開催された場合、どんな企画があってほしいか？」という問いに対し、「当事者や当事者の家族のトークイベント」「講演会」「LGBT映画祭」などの希望があったことを受け、Youtubeにて、原ミナ汰氏とのトークショー、性別違和を抱えた画家・岩本陽氏のご家族との座談会を配信した。また、ALLY（性的マイノリティ理解者）を描いたZOOMドラマを、女性起業家による原作・脚本・監督・出演にて制作・配信した。

第1回の手法とは違うが、性的マイノリティ理解促進を目的とした本質的な部分は同じである。オープニング～川柳大賞選考会(エンディング)までの再生回数は延べ約700回と、前回の動員数延べ約600名より多い結果となった。

第1回では、らぷらすが毎年募集している「区民企画協働事業」に応募し、らぷらすとの協働事業で企画・運営した。その年のらぷらすの「区民企画協働事業」担当職員・石見氏と、当時の女性起業家交流会の担当職員・山本氏は、区民団体の発想力と地域への発信力をよく理解してくれたため、イヴの木の企画を快く推進してくれた。当時のイヴの木は、公的活動の経験が少なかったため、公共施設でイベントを行う上での公的な手順をはじめ、区内広報掲示板の活用方法、らぷらす近隣の商店街へのアプローチ、公共施設における非営利活動についてなど、様々な点でフォローとレクチャーが繰り返された。主体的な団体の活動を重んじ、未熟な部分を規制ではなく育成してくれる石見、山本両氏は、イヴの木の成長に欠かせない存在であることをぜひ記しておきたい。

### 2.3 新しい防災、減災

「レインボーバレンタイン」の経験から、イヴの木メンバー一人ひとりに、ジェンダーの視点で物事を捉える習慣が付き始めた。副代表の小堤明子（陸前高田応援団代表）は、防災士の資格を持つ。その能力を生かし、企画責任者として「新しい防災、減災～ジェンダー視点を取り入れた避難を目指して～」を立案し、2020年11月にイヴの木のオンラインイベントとして実施した。詳細は以下を参照。

日時 2020年11月22日 11:00～16:30  
 会場 Youtubeチャンネル「イヴの木」  
 後援 世田谷区  
 協賛 三軒茶屋銀座商店街振興組合 有限会社マルカワ  
 協力 らぷらす 一般社団法人ハイコラ  
 内容 ※敬称略  
 コロナ禍での避難と防災における女性・多様性の視点  
 講師 NPO法人まこらぼ代表理事 柴田真希氏  
 女性起業家によるセミナーおよびワークショップ  
 ①災害時の栄養について  
 ②お片付けアドバイザーによる我が家の収納術  
 ③リフォーム会社社長が指南「災害に備える住まいづくり」  
 ④陸前高田応援団と一緒に作ろう「新聞紙のスリッパと紙皿」  
 東日本大震災から10年、この先10年～女性が見た震災～  
 パネラー 防災士・新沼真弓氏ほか  
 女性起業家による防災ワークショップドラマ「避難所にて」  
 ※脚本・監督・出演ともに女性起業家  
 防災と性～多様な性と性被害について～



図3 新しい防災、減災チラシ

パネラー NPO法人共生ネット代表 原ミナ汰氏  
NPO法人レインボースープ副代表 西坂ゆみ氏  
震災ボランティア経験者 西野カオル氏

女性起業家によるセミナーおよびワークショップ

⑤長引く避難生活に役立つ！

「身近な素材で作るメンタルケアグッズ」

防災クイズ選手権

今回の事業では、一般財団法人世田谷トラストまちづくり「公益信託世田谷まちづくりファンド」の「はじめの一歩部門」で5万円の助成金を受けてスタートした。「レインボーバレンタイン」での経験をもとに、少しでも地域社会にジェンダー視点を意識してもらおうと、世田谷区内で啓蒙活動を行うさまざまなジャンルの専門家を講師として招き、各分野におけるジェンダーの視点を取り入れた講演を行ってもらった。今回はオンライン開催ということで、講演やワークショップ等をZOOMで撮影し、それを配信した。そうすることで、スケジュールをスムーズに合わせられるという利点に気づき、その後のオンラインイベントの基礎にもなった。また、性被害などのセンシティブな内容も配信するため、視聴は事前予約制を導入し、できる限り人権に配慮する体制を整えた。

広報の面からは、世田谷区産業振興公社をはじめ、三軒茶屋銀座商店街振興組合など、地域への働きかけを徹底した。当初の想定申込数は50名であったが、当日の分も含め、合計約100名の申込となった。

## 2.4 その他の活動

「新しい防災、減災」を経て、2020年12月には、世田谷区清掃・リサイクル普及啓発施設「世田谷区エコプラザ用賀」にて、「イヴの木マーケット」を開催。これは、リユースやリサイクル素材などを利用したハンドメイド作品の販売会である。この時期は緊急事態宣言が一時解除されてはいたが、引き続きコロナ禍対策として、出展者だけでなく来場者にも、受付では検温・手指の消毒・連絡先の提示をお願いした。会場内の来場者数は1時間10名、ひとつのブースの滞在時間を15分と徹底し、人数制限の中でのマーケットだった。それにも関わらず、快くご協力頂いた地域住民の方々には、本当に感謝してもしきれない思いである。女性起業家たちも、環境問題に取り組みながら作品を販売するという初めての試みではあったが、作品にもアイデアが反映され、とても個性的なマーケットとなった。

翌年には、2月11日に第2回「レインボーバレンタイン」（前述のとおり）、さらには地域団体との交流も開始。互いの会議やコミュニティに参加しあっている団体には、「防災ネットワーク あみ∞あむ」や、「誰もが安心して住み続けられる地域づくり」のための活動をしている「NPO法人コミュニティ・ネットワーク・ウェーブ」がある。その他、NPO

法人防災アクションへの登録や、2021年12月4日開催の「女性の生き方 見本市」（第一生命保険株式会社・渋谷支社・自由が丘営業オフィス駐車場にて）など、今後も様々なイベントを計画している。このように、世田谷区内の団体・事業者との横の繋がりを重視することで、有事の際には互いに連携できる関係性を構築したいと考えている。

### 3. 活動を通じた気づきと課題

以上が現在までの活動報告である。ここまで事業を展開してきた中で、徐々にイヴの木や世田谷区内の課題が見え始めてきた。

助成金の申請などでプレゼンを行う際、必ず問われることがある。たとえば「レインボーバレンタイン」を提案した際もそうであったが、「女性起業家がなぜ性的マイノリティを支援するのですか？」と、よく訊ねられる。イヴの木としては、そのこと自体を特別だとは認識していない。女性もまた社会的マイノリティであり、ジェンダー問題は女性起業家として社会で活躍する上でも、避けては通れない社会課題である。性的マイノリティ支援は、ともに社会でマイノリティとして生活している立場同士、理解しあい、力を合わせて社会課題を解決するために必要な事業である。女性起業家の中にも身近に当事者がいる。ゆえに「女性起業家がなぜ性的マイノリティを支援するのか」と問われれば、それは自分事であるからと答えることができる。

とはいえ、「レインボーバレンタイン」は課題も残った。アンケートを見ると、来場者の捉え方は、このイベントのマルシェだけを楽しむ来場者と、LGBTQ当事者やその家族とで二分された感がある。それはマルシェを楽しむ来場者が、LGBTQ当事者への理解に関心がないのではなく、イヴの木の発信方法を変える必要があるということである。来場者にとって、女性起業家＝マルシェは、誰もが思い描くイメージである。ただ単に、レインボーグッズを開発して販売するだけでは営利目的と混同されやすい。女性起業家＝社会貢献というイメージに変えるには、もっと端的でわかりやすい表現が必要なかもしれない。

そこで「新しい防災、減災」では、動画に「なぜ女性起業家が社会貢献を行うのか」の答えとなるようなシーンを盛り込んでみた。例えば「東日本大震災から10年、この先10年～女性が見た震災～」では、ある起業家には、東日本大震災の被災体験について語ってもらい、ワークショップ動画では別の起業家に、東日本大震災後の不安な気持ちを香りのチカラで解消したエピソードを語ってもらった。様々な体験を乗り越えてきた女性起業家にとっても、社会課題は他人事ではなく、解決しなければならない自分事であると表現した。一人でも多くの視聴者に、ジェンダー視点を取り入れた避難について考えてもらえたら、ありがたい限りである。

### 4. おわりに

男女共同参画事業自体は横断的なものであり、それゆえに子育て事業や防災事業などと

## 活動報告

も深く関わりあう。イヴの木は、そんな様々な活動を行う女性起業家同士が、らぷらすを通じて繋がった。そこでそれぞれが携わる自身の分野に、男女共同参画の視点をもう少し浸透させる必要があると感じ、地域活動団体の土壌がある世田谷で、自ら動き出す方法を選んだ。女性起業家が草の根的活動で社会貢献を行うのは、こうした動機があることを、少しでも知ってもらいたい。ここまで女性起業家の社会貢献の取り組みを伝えてきたが、これからもこうした活動を通してできた繋がりを大事にし、さらに仲間を増やしていけたらと考えている。

以上をもって活動報告とする。

一般社団法人イヴの木

フェイスブック <https://www.facebook.com/Evenoki/>

ツイッター <https://twitter.com/evenoki>